

第30回広瀬川創生プラン策定推進協議会 議事録

- 日 時：平成 28 年 3 月 24 日（木曜日） 10：00～12：00
- 場 所：仙台市役所本庁舎 2 階 第 4 委員会室
- 出席委員：宮原 育子 会長、小祝 慶紀 会長代理、工藤 秀也 委員、佐藤 克彦 委員、菅井 一男 委員、杉山 ふじ子 委員、多田 千佳 委員、西大立目 祥子 委員、二本柳 基 委員、畠山 美帆 委員、長谷川 裕寿 委員
- 欠席委員：及川 稔 委員、後藤 淳 委員、深松 努 委員、遊佐 久昭 委員
- 事務局：仙台市建設局百年の杜推進部河川課
- 議 題：
 - ① 会長の選出について
 - ② 平成 27 年度重点事業の評価について
 - ③ 平成 28 年度重点事業の設定について
 - ④ 広瀬川創生プラン 掲載事業の更新について
 - ⑤ アイラブ広瀬川ロゴマークの使用基準について
- 要 旨：
 - 会長に宮原委員が選出され、会長指名を受け、小祝委員が会長代理に選出され、承認された。
 - 前体制に引き続いて、幹事会の設置が会長より提案され、工藤委員、杉山委員、西大立目委員が幹事に選出され、承認された。
 - 議題②～⑤については、事務局提案が承認された。
 - 広瀬川市民会議と広瀬川 1 万人プロジェクトとの提携について、転勤族や学生、外国人等、様々なターゲットを対象とした企画を実施しながら、地元の人々も巻き込みながら、交流を深めていくべきとの議論がなされた。

■ 議事詳細：

1. 開会

○司会（安田課長）

ただ今より「第30回広瀬川創生プラン策定推進協議会」を開会する。

今回は、平成28年1月29日付行われた第6期の改選後の最初の協議会となる。委員のみなさまにおいては、ご多用の折に委員就任をお引き受けいただき感謝申し上げます。会議を始めるにあたり、建設局次長の村上よりご挨拶申し上げます。

2. 局長挨拶

○村上次長

本来であれば、建設局長よりご挨拶をさせていただくところであるが、公務が重なっているため、代わってご挨拶申し上げます。

お忙しい中、ご参集いただき感謝申し上げます。また、委員の就任依頼に対して、快くお引き受けいただき、重ねて感謝申し上げます。当協議会は、昨年11月に行われた第29回の協議会を最後として、設立当初よりご尽力いただいた、江成会長、および伊藤会長代理がご退任となり、今回より新たに3名の委員をお招きして、新体制でのスタートを迎えることができた。

広瀬川創生プランは、昨年3月に改定が行われ、基本的な理念や目的を踏襲しながらも、10年間の取り組みの中で、広瀬川創生プラン策定推進協議会および広瀬川市民会議の役割の見直しという課題も見えてきた。

今期は、それらの課題も考慮しながら、持続可能な市民活動の再構築を図っていく、前期で培った実績やノウハウを最大限に活用し、広瀬川の魅力創出、および魅力発信を、より積極的に推し進めて参りたいと考えているところである。

○司会（安田課長）

続いて、改めて、第6期の改選にともない、委員に就任いただいた皆様をご紹介させていただく。

■東北電力株式会社宮城支店 企画管理部門（広報・地域交流） 主査 及川 稔 様（欠席）

■広瀬川市民会議 会長理事 工藤 秀也 様

（工藤委員） よろしく願います。

■東北工業大学 環境エネルギー学科 教授 小祝 慶紀 様【新任】

（小祝委員） この度、委員就任を仰せつかった。まだ、様子がわからないところもあるが、精いっぱい務めさせていただく。よろしく願います。

■仙台商工会議所 中小企業支援部 次長 後藤 淳 様（欠席）

■国土交通省東北地方整備局 仙台河川国道事務所 調査第一課長 佐藤 克彦 様。

（佐藤委員） しっかりと広瀬川創生プランの推進を支援していきたいと考えている。よろしく願います。

■特定非営利活動法人 広瀬川ボートくらぶ 理事長 菅井 一男 様

（菅井委員） 河原町の宮沢橋の下で、NPOを立ち上げて貸ボート事業を実施している。また、5/3～5の期間には「広瀬川で遊ぼう」というイベントも実施している。いずれも多くの市民の方にお越しいただき、ぜひみなさまにもお越しいただき、楽しんでいただければと思っている。よろしく願います。

■建築と子供たちネットワーク仙台 杉山 ふじ子 様

(杉山委員) よろしく願います。

■東北大学大学院 農学研究科 准教授 多田 千佳 様【新任】

(多田委員) 私は、大学受験の際に広瀬川を見て、仙台に住もうと決意した。今回、こういったご縁で広瀬川に関われることを不思議に感じている。よろしく願います。

■フリーライター 青空編集室主宰 西大立目 祥子 様

(西大立目委員) 引き続き、お引き受けさせていただく。よろしく願います。

■公益財団法人 仙台観光国際協会 常務理事兼国際化事業部長 二本柳 基 様

(二本柳委員) 引き続き、お引き受けさせていただく。

■ニッカウキスキー株式会社 仙台工場 理事 工場長 長谷川 裕寿 様

(長谷川委員) よろしく願います。

■株式会社JTB東北 地域交流・MICE事業部 地域交流事業推進課 畠山 美帆様【新任】

(畠山委員) 前任の坂口より引き継ぎ、お引き受けさせていただいた。地域交流を担当しており、着地型商品の開発や調査、インバウンド事業も手掛けている。微力であるが、よろしく願います。

■広瀬川1万人プロジェクト実行委員会 副実行委員長 深松 努 様(欠席)

■宮城大学 事業構想学部 教授 宮原 育子 様

(宮原委員) 引き続き、皆様とご一緒に参画させていただく。よろしく願います。

■宮城県仙台土木事務所 河川砂防第一班長 遊佐 久昭 様(欠席)

委員となられた皆様のご紹介は、以上となる。なお、仙台市職員の出席者については、手元資料の座席表をご確認いただき、紹介に代えさせていただきます。

3. 議事

1) 会長の選出について

○司会 (安田課長)

今回は、委員改選後最初の協議会となるので、まずは会長の選出を行いたい。会長は、当協議会の設置要綱第5条に基づいて、委員の中から互選により定めることとなっている。どなたか、立候補もしくはご推薦はあるか。

○工藤委員

現委員の中で、最も協議会の委員を長く勤められておられ、プランについても熟知してらっしゃる、宮原委員を会長に推薦したい。

○司会 (安田課長)

宮原委員への推薦があったが、いかがか。

＝一同了承＝

○司会 (安田課長)

それでは、全会一致ということで、宮原委員に会長をお願いする。次に、会長代理職であるが、こちらは、会長の指名により定めることとしている。宮原会長、どなたか指名をいただきたい。

○宮原会長

前任の江成前会長のご推薦もあり、今期より本協議会の委員となられた小祝委員にお願いしたいが、いかがか。

＝一同了承＝

○司会（安田課長）

それでは、全会一致ということで、小祝委員に会長代理をお願いする。早速ではあるが、ここで会長、会長代理のお二人からご挨拶いただきたい。

○宮原会長

今期の当協議会の会長をお引き受けさせていただく。会長の重責をしっかりと果たすべく、がんばっていききたい。江成前会長、伊藤前会長代理をはじめ、当協議会は、市民・企業・行政といった、広瀬川に大変熱心に関わっている多様な方々が集って、広瀬川を軸にして様々な活動を展開していく、重要な場と認識している。この会の活動、および広瀬川に関わる方々の活動と交流がより活発なものとなるよう、議事を進めて参りたいと思っている。今後とも、ご協力のほどよろしく願います。

○小祝会長代理

前任の江成より話を伺い、力不足を感じながらも、お引き受けさせていただいた。さらに会長代理という重責も拝命したとあって、宮原会長をはじめ、みなさまとともにがんばっていきたいと考えている。私は生まれも育ちも仙台市とは縁が無く、「青葉城恋唄」で知っている程度であったが、毎日の通勤で目にする広瀬川の風景は非常に美しく、逆に外部の目という立場を活かして、創生プランの推進に貢献して参りたいと思っている。よろしく願います。

○司会（安田課長）

宮原会長、小祝会長代理、ご挨拶いただき感謝申し上げます。それでは、これより議事に入っていきたいが、いかがか。

○宮原会長

1点、提案させていただきたい。江成前会長が会長を務められていた際も、協議会よりももう少し小回りの利く議論の場として、幹事会を組織して、プラン推進に係る様々な議題を検討しておられた。今期も同様に、幹事会を組織したいと思うが、いかがか。

＝一同了承＝

○宮原会長

それでは、小祝会長代理と、前期も幹事を務められていた、工藤委員、西大立目委員、杉山委員にお願いしたいと思うが、いかがか。

＝一同了承＝

○宮原会長

それでは、幹事会の皆様においては、よろしく願います。

○司会（安田課長）

それでは、幹事会の設置について、ご承認いただいたということで、幹事の皆様におかれましては、事務局からもよろしくようお願い申し上げます。幹事会のあり方については、委員より、検討の要請をいただいているところである。幹事会は、特に当協議会の規約にも定義されておらず、幹事会のメンバー、および事務局において、運営方法について、もう少し検討させていただきたいと考えている。なお、次長の村上は、公務が重なっており、ここで退席させていただく。

本日は全15名の委員のうち、12名の方に出席いただいております、過半数を達しているため、本会は成立している。以降の議事の進行については宮原会長にお願いする。

○宮原会長

まず、今回の議事録署名は五十音順で佐藤委員にお願いしたいがいかがか。

＝一同了承＝

2) 広瀬川創生プランにおける本協議会の位置づけとの議題の概要について

○宮原会長

まず、議事に入る前に、新任の委員もいるということもあるので、当協議会の広瀬川創生プランにおける位置づけと役割について、事務局から説明をお願いしたい。

○事務局（杉井 広瀬川創生室長）

資料1に沿って、広瀬川創生プランにおける本協議会の位置づけとの議題の概要を説明。

○宮原会長

今の事務局からの説明について、質問等が無ければ、議事に入るがいかがか。

＝一同了承＝

3) 「平成27年度重点事業の評価」について

○宮原会長

それでは、議題②「平成27年度重点事業の評価」について、事務局から説明をお願いしたい。

○事務局（杉井 広瀬川創生室長）

資料2および3に基づき、以下の項目について説明。

- ✓ 「広瀬川1万人プロジェクト」の開催
- ✓ 「アイラブ広瀬川プロジェクト」の実施
- ✓ 広瀬川市民会議の運営体制の強化検討

○宮原会長

平成27年度重点事業について、評価シートに沿って説明頂いた。何か修正点や意見等はあるか。

○杉山委員

「広瀬川1万人プロジェクト」の開催に関連して、大橋会場の担当をしているが、今までは、参加証明書の兼ね合いもあり、建築系の企業の方が多かった。しかし最近では、レクリエーション目的と思われる美容師の団体や、少年野球団等の参加も見られており、良い傾向であると感じている。一方

で、参加企業や団体間の横のつながりが薄いことは課題であり、清掃に参加したことが交流のきっかけとなれば、もっと有意義な活動になると考える。

○菅井委員

同じく「広瀬川1万人プロジェクト」の開催について、宮沢橋会場の担当をしている。地下鉄の駅に近いということもあり、参加者が増加傾向であるが、それにともないゴミが少なくなり、時間を持て余し気味である。清掃以外の活動も同時に行うなど、イベントの幅を広げていく必要があると考えている。

○工藤委員

1万人プロジェクトの実行委員長を務めている。まず、プロジェクト全体のことをお話させていただくと、7～8年前に比べれば、ゴミの量は減っているが、下流部では東日本大震災以降はゴミが増え、また漁網のような手を付けることができないゴミも出てきている。一方上流部では、特に私が担当している作並会場は、国道沿いの川縁のゴミを拾っており、他の会場とは少し様相が違うかもしれないが、着実にゴミの量は減ってきている。菅井委員からもあったが、清掃以外の活動、例えば広瀬川の理解を深めるようなイベントを同時に開催できないか考えているものの、準備等のスタッフ確保が課題であり、1万人プロジェクトの参加企業にさらなる積極的な協力を求めているところである。

○西大立目委員

「アイラブ広瀬川プロジェクト」の実施に関連して、プロジェクトに含まれている、まち歩き「小さな旅」のガイドをしている。毎回多くの申込があり、事務局で抽選により参加者を決定していると聞いており、大変うれしく思っている。実際に実施すると、仙台30年在住でも、今日初めて歩いたというような声が多い。広瀬川は、我々も含めて普段から積極的に関わっている人にとっては当たり前の清流であっても、多くの仙台市民にとっては必ずしもそうではないということを痛感する。これを解決するためには、やはり広瀬川に接するきっかけを作ることが大切で、そういった意味では、小さな旅はその一助となっていると考えられる。片平市民センターでやっているような、ボランティアガイドの養成も、他の上流域等の市民センターでも実施して、広瀬川に触れる機会を作っていくべきであると考えている。

○宮原会長

「広瀬川市民会議の運営体制の強化検討」については、このあとの議題とも関わってくるとは思うが、平成27年度の重点事業の評価については、事務局より提案頂いた評価シートの内容でよいか。

＝一同了承＝

4) 「平成28年度重点事業の設定」について

○宮原会長

それでは、議題③「平成28年度重点事業の設定」について、事務局から説明をお願いしたい。

○事務局（杉井 広瀬川創生室長）

- ✓ 資料4に基づき、以下の項目を平成28年度重点事業として提案。
 - ① 「広瀬川1万人プロジェクト」の開催
 - ② 企業等との協働事業の促進
 - ③ 「アイラブ広瀬川プロジェクト」の実施
 - ④ 広瀬川市民会議の運営体制の強化検討
- ✓ 同じく、資料4に基づき、平成28年度の広瀬川創生プラン事業負担金の支出対象事業および申請額の上限についての配分を説明。

○宮原会長

平成28年度重点事業の設定について、4事業を提案頂いた。何か修正点や意見等はあるか。

○長谷川委員

重点事業②「企業等との協働事業の促進」に関連して、「作並かつぱ祭り」に対して、工場内敷地の一部を会場として提供している。一昨年は来場者が1,000人を超え、来場者の安全確保や、スタッフおよび会場のキャパシティの不足等の課題が浮き彫りになった。昨年は、NHKで放送された「マッサン」の効果もあり、一般の工場見学者が増え、工場敷地内に駐車スペースを確保できなくなったため、工場外の敷地を駐車場として借り受け、シャトルバスによる送迎を行った。さらに、駐車台数および来場者数を制限すべく、事前申込制としたが、逆にそれによって、来場者一人あたりの満足度向上につながったと考えている。今年もまだまだ工場見学者の増加傾向は続いていることから、昨年同様、場外駐車場を確保しシャトルバス送迎の体制としたいと考えている。

○宮原会長

重点事業④広瀬川市民会議の運営体制の強化検討の中で、広瀬川市民会議のNPO化検討と、広瀬川1万人プロジェクトとの提携が、掲げられている。広瀬川1万人プロジェクトは、企業の参加が多く、とりわけ仙台の特徴として、支店企業が多いため、転勤族の方が多いと言える。そういった転勤族の方をターゲットとして、最初に仙台という地域を知ってもらうための手段として、広瀬川に関わる機会となるような講座を開催し、それを通じて、広瀬川1万人プロジェクトおよび広瀬川市民会議の活動への参加や入会につなげていければ良いと考えている。

○小祝会長代理

現在の大学の教員となる前は、民間企業に勤めており、香川県の高松市に住んでいた。全国展開の企業であったので、2～3年で転勤ということが一般的であった。四国の高松支店に転勤となったときのことであるが、自分は会社の中で、自然と知り合いが増えていくものであるが、妻は初めての土地に慣れるのに苦労していた。しかし、ある時にクチコミで転勤族の夫人の集まりがあることを知り参加したところ、地元の観光名所を訪れたり、ご当地の料理を実際につくるなどの企画を通して、奥様どうしだけでなく、地元の人とのつながりを作ることができた。そういった活動を継続することで、高松から別の地域に転勤した際には、転勤した先の地域で、高松を宣伝してもらえんというようににもつながっていく。そういった経験から、転勤族やその家族を対象とした企画を通じて、広瀬川に関わるきっかけづくりをしていくことは、非常に効果的であると考える。

○宮原会長

仙台市でも「転妻カフェ」という、転勤族の奥さま達を対象とした、交流会が開催されている。これは「WE プロジェクト※」の一環で、転勤族がもっとまちに出て楽しめるような企画を実施するグループが主催しているものであり、広瀬川も東西線との関わりは非常に大きいため、こういった団体との連携も視野に、転勤族やその家族を対象とした活動を考えていくべきであると考えている。

※WE プロジェクト…地下鉄東西線開業に合わせて展開された、市民主体の活動の総称

○畠山委員

転勤族以外のターゲットとして、仙台は学都仙台と称されるように、学生が多いことも特徴である。全国各地から集まる学生と、そのご父兄を対象として、アパート探しのような感覚で参加できる、広瀬川を紹介する企画を実施することにより、新たな広瀬川ファンを獲得できるのではないかと考える。

○二本柳委員

仙台観光国際協会では、増加傾向にある留学生を含めた外国人の方を対象に、国際センターの交流コーナーで様々なイベントを実施している。これらのイベントのテーマとして、広瀬川を取り上げ、地元の人々の参加も呼びかけながら、交流を図っていくということもできるのではないかと。

○宮原会長

本協議会や市民会議と、仙台観光国際協会とが連携していくことは可能か。

○二本柳委員

可能性はあると考える。

○宮原会長

様々な主体やターゲットに対して、市民側、企業側それぞれの視点で、お互いにメリットのある企画やイベントの実施を目指していくことが重要であると考えます。

その他、意見がなければ、平成28年度の重点事業について、事務局提案に従って設定するとしてよいか。

＝一同了承＝

5) 広瀬川創生プラン 掲載事業の更新について

○宮原会長

では、議題④「広瀬川創生プラン掲載事業の更新」について、事務局から説明をお願いしたい。

○事務局（大平主事）

資料5に沿って、各事業の主体に照会した結果のうち、変更箇所について説明。

- ✓ No.44「上下水道施設見学会」が完了
- ✓ 新規に「定例探鳥会の実施（日本野鳥の会宮城県支部）」をNo.72として追加
- ✓ その他、軽微な文言の修正、近年の活動実績の追加等あり

○宮原会長

71の事業のうち、一つが完了し、一つが追加となり、合計の事業数は71で変わらずということであるが、意見等がなければ、事務局より説明のあった71事業を、平成28年度のプラン掲載事業としたいがよいか。

＝一同了承＝

6) アイラブ広瀬川ロゴマークの使用基準について

○宮原会長

では、議題⑤「アイラブ広瀬川ロゴマークの使用基準」について、事務局から説明をお願いしたい。

○事務局（大平主事）

資料6に沿って、背景、使用規則、申請書式、広報媒体（広瀬川ホームページ）等について説明。

○宮原会長

アイラブ広瀬川のロゴマークについて、使用してくださった団体もあるということで、ルールを整備していきたいということであった。意見等がなければ、ロゴマークの運用については、事務局提案の通りとしてよいか。

＝一同了承＝

○宮原会長

本日の議事では、平成27年度の評価や、平成28年度の取り組み方等について、様々な意見をいただいたが、全体を通して、何か意見はあるか。

○佐藤委員

国の直轄区間や県管理区間を問わず、以前はゴミが多かった広瀬川のゴミが少なくなっているのは、協議会のみなさまや、広瀬川市民会議をはじめとした、市民のみなさまのご尽力によるものであるということ、今回初めて会議の場に参加して、改めて実感した。一方で、広瀬川で遊ぼうに参加して活動報告等は行ったものの、河川管理者としての広瀬川のPR という点では、昨年度は不十分であったと認識している。本日の委員の皆様からの意見を参考にして、来年度は、広瀬川の魅力をより広く発信できるような方法を、河川管理者としても検討していきたいと考えている。

○宮原会長

今後の課題として、1万人プロジェクトとどのように提携して市民会議の運営を支えていくのか、また、一斉清掃以外にどのような活動を行って持続的な交流につなげていくのか、といったことが挙げられる。加えて、それらを解決するための様々なアイデアについても、今回の協議会で議論されたが、実現に向けて具体的に誰がやっていくのか、ということも大きな課題である。色んな主体の方に、少しずつ働きかけを行っていくことが大切で、より実効性のある形をもって、それらの取組がスタートできるようにしたいと感じた。

他に意見・質問がなければ、以上の内容を事務局で議事録にまとめていただき確認することとして、本日の議事を終了したい。

＝一同了承＝

4. 閉会

○司会（安田課長）

以上をもって「第30回広瀬川創生プラン策定推進協議会」を終了する。

以上